

聖書日課 『からし種』 2023.3.19-3.26

<p>3月19日 (日) I サム 2章</p>	<p>「わたしはわたしの心、わたしの望みのままに事を行う忠実な祭司を立て、彼の家を確かなものとしよう。彼は生涯、わたしが油を注いだ者の前を歩む」(35節)。これは祭司エリのもとに来て告げた神の人の言葉。ならず者である息子たちを強く責め立てず、自分たちの私腹を肥やした祭司エリに対する神の制裁。そして、神はサムエルを用いられていく。</p>
<p>20日 (月) I サム 3章</p>	<p>「主は引き続きシロで御自身を現された。主は御言葉をもって、シロでサムエルに御自身を示された」(21節)。この当時主の言葉や幻が示されることはまれであった(1節)。しかし、夜中、主はサムエルのところに来てエリの家にかかる恐ろしい裁きの言葉を告げた。サムエルはエリに主の言葉を全て話した。この忠実な行いが主に認められたのだろう。</p>
<p>21日 (火) I サム 4章</p>	<p>「神の箱は奪われ、エリの二人の息子ホフニとピネハスは死んだ」(11節)。この時、ペリシテ軍に殺されたイスラエルの歩兵は3万人。この悪い知らせをベニヤミンの男が戦場から走り出て、神の箱があったシロのエリのもとに報告した。エリはその報告を聞くと城門のそばの彼の席からおむけに落ち、首を折って死んだ。神がサムエルに告げた言葉が成就した。</p>
<p>22日 (水) I サム 5章</p>	<p>「実際、町全体が死の恐怖に包まれ、神の御手はそこに重くのしかかっていた」(11節)。神の箱を奪ったペリシテ人だったが、この箱が置かれたところでは大きな禍が起こった。ダゴンの神殿でもダゴンは倒れ、アシュトドの人々にも災害がもたらされた。移されたエクロンでも大きな叫びが起こった。そこで神の箱はイスラエルへ送り返される事となる。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.3.19-3.26

<p>23日 (木)</p> <p>I サム 6章</p>	<p>「それが自分の国へ向かう道を、ベト・シエメシュへ上って行くならば、我々に対してこの大きな災難を起こしたのは彼らの神だ」(9節)。ペリシテ人は禍をもたらす神の箱を車に載せ、子牛(雌)二頭に引かせて行くがままにさせ、この災難がイスラエルの神からなのかを知る事とした。それはベト・シエメシュへ向かっていった。神が動かされたのだろう。</p>
<p>24日 (金)</p> <p>I サム 7章</p>	<p>「サムエルはまだ乳離れしない小羊一匹を取り、焼き尽くす献げ物として主にささげ、イスラエルのため主に助けを求めて叫んだ」(9節)。神の箱がキリヤト・エアムに落ちていてからも20年に渡りペリシテ人にイスラエルの民は苦しめられていた。ペリシテ人が攻め込んできた時、サムエルの祈りを聞かれた主は雷鳴を轟かせペリシテ人を退かれた。</p>
<p>25日 (土)</p> <p>I サム 8章</p>	<p>「彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。…彼らのすることといえば、わたしを捨てて他の神々に仕えることだった。」(7~8節)。これはサムエルに言われた主の言葉。主はどんなに傷んだことだろう。主は条件付きで民の要求を認めるようにサムエルに伝えた。目に見える王を求め、主に従わない愚かさ気付かない私たちがいる。</p>
<p>26日 (日)</p> <p>I サム 9章</p>	<p>「あるとき、サウルの父キシウのろばが数頭、姿を消した」(3節)。ろばが姿を消した時、ろばを探しに行ったサウルが預言者サムエルと出会い、油を注がれて王に立てられることになる。誰が想像できただろうか。神は最も小さな部族ベニヤミンの、最も小さな一族の息子を用いたもう。神は不思議な方。神がなされることは、わたしたちの思いをはるかに超えている。</p>